



編集・発行者 山村 準
tel:0595-63-1725
Email jyun.y@asint.jp

謹賀新年

明けましておめでと
うございませ
本年もよろしくおね
がいたします

平成二十九年元旦

獣害対策 新年にあたり

近年、野生動物による農林被害が深刻化しています。中山間地域では、連日野生動物が出没しています。経済的、精神的な被害が日常的にもたらされています。

中山間地域では、耕作意欲の減退、耕作放棄地の増加など、二次的被害が深刻な影響をもたらしています。また、植物を含む生態系全体への影響も心配されるところです。

鳥獣被害が深刻化している要因としては、オオカミの絶滅、拡大造林政策、狩猟圧の低下、暖冬に伴う生息域の拡大、保護政策など複合的要因が考えられますが、保護政策については、環境省が保護にこだわった政策を認め、重い腰を上げ鳥獣保護法を見直し、増えすぎた動物を適正な水準まで減らす鳥獣保護管理法を改正したのは、平成26年5月30日です。

鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律について 『定義 生物多様性の確保、生活環境の保全又は農林水産業の健全な発展を図る観点から、鳥獣の保護、その生息数を適正な水準に増加させ、若しくはその生息地を適正な範囲に拡大させること。または、その生息地の水準及びその生息地の範囲を維持すること。』

鳥獣の管理 その生息数を適正な水準に減少させ、または、その生息地を適正な範囲に縮小させる。』

鳥獣被害が深刻化している要因としては、オオカミの絶滅、拡大造林政策、狩猟圧の低下、暖冬に伴う生息域の拡大、保護政策など複合的要因が考えられますが、保護政策については、環境省が保護にこだわった政策を認め、重い腰を上げ鳥獣保護法を見直し、増えすぎた動物を適正な水準まで減らす鳥獣保護管理法を改正したのは、平成26年5月30日です。

鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律について 『定義 生物多様性の確保、生活環境の保全又は農林水産業の健全な発展を図る観点から、鳥獣の保護、その生息数を適正な水準に増加させ、若しくはその生息地を適正な範囲に拡大させること。または、その生息地の水準及びその生息地の範囲を維持すること。』

鳥獣の管理 その生息数を適正な水準に減少させ、または、その生息地を適正な範囲に縮小させる。』

鳥獣被害が深刻化している要因としては、オオカミの絶滅、拡大造林政策、狩猟圧の低下、暖冬に伴う生息域の拡大、保護政策など複合的要因が考えられますが、保護政策については、環境省が保護にこだわった政策を認め、重い腰を上げ鳥獣保護法を見直し、増えすぎた動物を適正な水準まで減らす鳥獣保護管理法を改正したのは、平成26年5月30日です。

度には45万頭に達すると予測されています。鳥獣保護管理法施行以降捕獲数は増えていますが、繁殖の勢いに追いついていないのが現状。

・狩猟人口の減少 平成24年度には約18万人と昭和54年度の半分以下に減少しています。国は有害駆除に企業の参入を促し捕獲率向上を図っていますが、国を挙げての若手ハンターの育成が急務だと思っています。野生動物の捕獲は、すなわち命を絶つことを意味します。

・電気柵事故 2015年には、個人の設置した電気柵に人が触れて感電死するという痛ましい事故も起きています。静岡県西伊豆町で男性2人が死亡、子供2人を含む5人が重傷。電気柵を設置した男性自殺。

・野生鳥獣との適切な関係構築 野生動物による「被害」とは、人間側から見た都合のよい言葉で、動物が一方的に悪いのではなく、人間側にも反省しなければならぬ点が多々あり、それを自覚して、対策をたてることを考えなければならぬと思います。

・交通被害 近頃では農・林業被害だけでなく、野生動物と列車や自動車の衝突事故が多発し、社会問題になっていて、山間部を走る鉄道路線ではその衝突対策が大きな問題です。多くの鉄道会社では、線路に野生動物侵入防護柵を設置することが一般的になってきています。

・人間が農耕を始めたのは、1万年以上前と考えられています。以来、農作物は、野生動物たちにとっては魅力的な食物であったと思われませんが、サルやシカ、イノシシ、スズメやカラス、ネズミなど野生鳥獣は、全て農作物だけに依存していたわけではなく、人間と程よい距離を置いた環境のなかで、木の実や木の葉、昆虫や小動物など、また、農作物に被害を与える害虫や雑草の種を食べ、人間の役にたつていました。人間側も狩猟によりこれら鳥獣を食料としたりと、人間と野生鳥獣との関わりは、きわめて多面的なものがありました。

チョット一服

食系は益虫で、草食系は益鳥？
肉食系は害虫です。肉食の代表格はナナホシテントウです。草食系の代表格はニジュウヤホシテントウです。肉食系と草食系の見分け方は、体の甲羅にあります。甲羅とはテントウムシの星の部分です。肉食系のテントウムシは甲羅がつるつるして光っています。逆に草食系のテントウムシは細かい毛がびっしりと生えていますので簡単に見分けができます。皆さんも、テントウムシを見つけたらまず、甲羅をチェックしてみてください。テントウムシは甲羅の星の数で名前がついているものが多いです。

昔話、猿蟹合戦や桃太郎に見られるようにサルは日本人にとってなじみ深い動物でした。しかし、明治時代になって狩猟が自由化され、銃による狩猟で多くなると、1960年頃からの拡大造林政策でサルの生活環境が大きく変わってしまいました。サルは、人間の怖さを知る世代のサル達は今、行政頼みから脱却し、被害減少と個体群の存続の両方を図るべく、猿害に強い地域づくりを確立することが求められます。

動物など、また、農作物に被害を与える害虫や雑草の種を食べ、人間の役にたつていました。人間側も狩猟によりこれら鳥獣を食料としたりと、人間と野生鳥獣との関わりは、きわめて多面的なものがありました。

動物など、また、農作物に被害を与える害虫や雑草の種を食べ、人間の役にたつていました。人間側も狩猟によりこれら鳥獣を食料としたりと、人間と野生鳥獣との関わりは、きわめて多面的なものがありました。

動物など、また、農作物に被害を与える害虫や雑草の種を食べ、人間の役にたつていました。人間側も狩猟によりこれら鳥獣を食料としたりと、人間と野生鳥獣との関わりは、きわめて多面的なものがありました。

動物など、また、農作物に被害を与える害虫や雑草の種を食べ、人間の役にたつていました。人間側も狩猟によりこれら鳥獣を食料としたりと、人間と野生鳥獣との関わりは、きわめて多面的なものがありました。

平成28年サル出没状況

昨年、宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会では、名張A・B両群での大量捕獲を実施しました。

平成27年度モニタリング結果。
A群総数45頭、オトナオス3頭、オトナメス16頭。

ワカモノメス1頭、コドモ16頭、アカンボ9頭、ハナレ4頭、大量捕獲数19頭、有害捕獲数4頭、死亡1頭。

大量捕獲後推定数22頭、平成28年10月現在の個体数(古川氏計数)大量捕獲数27頭。

オトナオス3頭、オトナメス9頭、コドモ14頭、アカンボ5頭、合計31頭で9頭増となっています。

B群総数40頭、オトナオス3頭、オトナメス12頭、ワカモノオス2頭、ワカモノメス1頭、コドモ17頭、アカンボ5頭、大量捕獲数27頭。

有害捕獲数5頭。大量捕獲後推定数7頭と、両群とも大幅に減少しています。大量捕獲時、A群では遊動に大きな変化は認められなかったが、B群では、捕獲檻周辺(トンポ池)に集中し、近辺農家に大きな被害が発生しています。

A群移動グラフでの青蓮寺湖、ひなち湖の数値が高いのは、湖畔に自生する桑の実、ア

カシアの花など湖畔の植生が影響しているものと思われる。9月頃から移動距離が長くなったと指導員報告にありますが、生息環境の悪化(餌不足など)などがあれば、長距離移動することがあります。

移動距離や速度も季節によって変化します。積雪地帯では冬季にはあまり移動せず、春季にはゆっくり移動し

ながら採食し、秋季には比較的長い距離を迅速に移動するという傾向が報告されています。モニタリングの結果を待たなければなりません、A群では9頭増加し、31頭の個体数を確認されています。両群共に今後「よそ者」の浸入が心配されています。

B群移動グラフで、安部田の数値が高いのは、大量捕獲後の餌に

集中したからで、近頃では安部田周辺への出没は減少しています。また、大量捕獲後から、国道165号南側を遊動して、西谷、竜口周辺から大きく離れることなく遊動しています。

B群での個体数の増加は、今のところ確認されておりませんが、近い将来「よそ者」の浸入は否定できません。

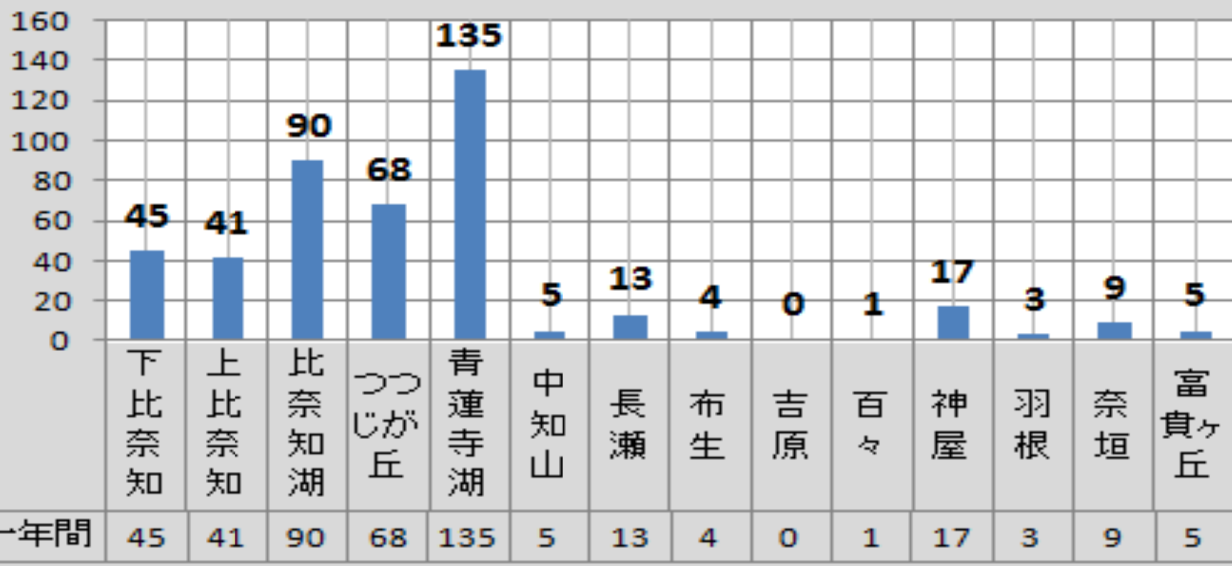
編集局より

私たちは、ホームページ「やまだのかかし」を開設しております。是非一度のぞいて見て下さい。新聞では発信できない情報も満載してご訪問をお待ちしています。

問をお待ちしています。検索キーワードは、「名張鳥獣害問題連絡会」or「猿新聞」です。

名張鳥獣害問題連絡会 発行部数
錦生地区：100部
部赤目地区：200部
箕輪地区：70部
ひなち・富貴ヶ丘：150部
つつじが丘：430部
市民センター：120部(12地区)
名張市議会：20部
名張市役所：20部

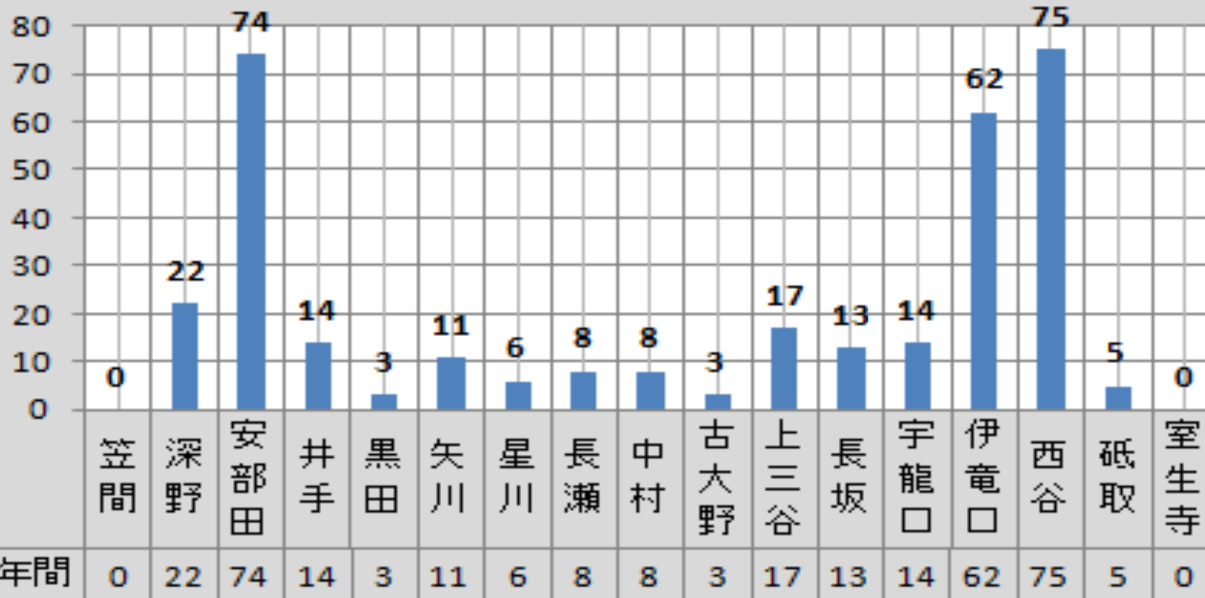
名張A群出没回数(平成28年)



一年間	下比奈知	上比奈知	比奈知湖	つつじが丘	青蓮寺湖	中知山	長瀬	布生	吉原	百々	神屋	羽根	奈垣	富貴ヶ丘
1月	3	8	1	6	0	0	4	2	0	0	3	0	0	1
2月	14	3	0	11	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1
3月	7	6	1	12	3	2	1	1	0	1	2	0	0	0
4月	4	2	10	3	12	1	0	0	0	0	0	0	0	1
5月	0	2	15	1	14	0	1	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	0	10	0	27	1	0	0	0	1	0	0	0	0
7月	2	5	6	7	6	1	0	0	0	0	0	0	4	0
8月	8	7	4	11	2	0	4	1	0	0	1	3	1	1
9月	3	4	8	8	13	0	3	0	0	0	3	0	1	1
10月	0	0	10	1	27	0	0	0	0	0	1	0	0	0
11月	0	0	13	2	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	1	4	12	6	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ = 比奈知湖・青蓮寺湖の数値が高いのは、湖畔の植生が影響していると思われます。

名張B群出没回数(平成28年)



一年間	笠間	深野	安部田	井手	黒田	矢川	星川	長瀬	中村	古大野	上三谷	長坂	宇龍口	伊竜口	西谷	砥取	室生寺
1月	0	5	16	1	2	0	0	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0
2月	0	6	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	4	7	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	6	2	0	0
4月	0	4	1	0	0	5	0	2	2	1	1	0	0	1	12	1	0
5月	0	2	14	1	1	2	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0
6月	0	0	11	10	0	0	0	1	2	2	0	0	0	1	1	0	0
7月	0	1	7	2	0	0	3	0	0	0	1	1	2	1	7	0	0
8月	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	6	6	4	2	7	1	0
9月	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	0	4	4	16	3	0
10月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	12	18	0	0
11月	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	2	3	2	13	8	3	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	15	14	0	0

■ = 1月初旬の大量捕獲が影響しているものと思われます。